

八方沢遡行報告書

【日程】7月30日(土)～7月31日(日)

【メンバー】CL 辻本 SL岸野 高梨 萱野(香) 前田 田辺 小俣 小原(記録)

【山域】蔵王連峰／八方沢

・7月30日(土) 晴れ/曇り時々大粒の雨

前夜発：20時千葉駅北口集合、東北道～山形道、古関SAで仮眠。

【行程】駐車場所(8:50) 入渓点(9:40) F2 到着(12:40) F2 滝上(17:10) テン場(17:40)

今回は1泊2日だからということもあるのか古関SAを6時15分とゆっくり目の出発、山形蔵王ICで降り、コンビニで朝食をとる。

蔵王ダム管理所に駐車予定であったが、通行止めの看板に阻まれる。

位置確認すると管理所までまだ2.2kmも先、仕方がないが手前に駐車し出発。

ここで1時間弱の時間ロスとなる。

照りつける上りのアスファルト道がとても熱く序盤から大汗となる、7月25日から工事とのことだが、まだ始まっている様子はなく、ダム管理所までバイクも数台通っていた。

ダム沿いを道なりに進み、川床に九十九折に下る、蔓草が絡まってわかりづらいが壊れた吊り橋がかかった場所が入渓点となる。

左壁が高く切り立った川原を30分程歩く、徐々に薄暗いゴルジュとなるとF1(3m)が現れる。滝は低いが釜がとても深い、八方沢はこういった場所が多く泳ぎどころ満載だ。約10m程泳ぎ滝右側から登り、滝上部で1歩トラバース。

早速SLが手になにやら小さい金属製の手鉤？秘密兵器を持ちながら取り付く。

ザック引き上げ隊としてそのまま男性陣が続くが、CLが水中からの取り付きに苦戦している「早く上がれー！」とSLから叱咤激励、上り口で滑り落ち滝の落ちどころに引き込まれてしまう、引き込まれると数秒は姿は見えず恐ろしくなる。

一旦岸に戻り再トライ。最初はみんながんばれー！と笑っていたが、3度続きだんだん笑えず、水も長く浸かると冷たいだろうと心配だったが、ようやく壁に取り付き登り終え安堵。

後に残された女性陣は怖いイメージを植えつけられ絶対落ちたくない！！と口をそろえる。男性陣でザックを引き上げ後、女性陣は問題なく F1 を通過。
人数分のザックピストンもプラスされ思っていた以上に時間がかかった。

左手に見える南雁戸沢を過ぎると、間もなく F2 となる。滝の直登は難しく、右から大高巻きか、左は小さく巻ののだが最初の 2、3 手が難しく、他の報告ではショルダーで取りついている。大高巻きは高度もあり厳しそう、最初が登りづらそうだが左側から小さく巻くことにした。

頼みの綱の M ちゃん、一足だけ補助後ススッと登り上げる流石。後続は張ってもらったロープをありがたくごぼうで登らせてもらう。

SL と K ちゃんが続き、滝の落口までのトラバースは SL が先に行くようだ、下から見た感じだとこのトラバースはいやらしく感じる。

トラバース中間手前あたりまで来たところで、突然 SL が落ちてしまった。が、数メートル下の木で止まった。周りがワタワタしている間に SL が動き出しとりあえず一安心、ほんとよかった・・・とりあえず怪我はないらしい。

トラバースが危うそうだったので、登り上げ沢床に懸垂で降りることになる。

傾斜の強い泥壁を登る。慣れぬ者には難しいようでここでも少しばかり時間がかかり、1本の滝を越すのに4時間半もの時間を要してしまった。

ここから少し先に大崩壊地が現れる、沢をせき止め崩落先には水が溜まり大きなプールとなっていた。

ここは各々ザックをビート板にし 20~30m 程バタ足で泳ぐ。場所によっては全く進まず、くるくる回ったり逆走したり水流に弄ばれ思うように進めずなかなか難しかった。

時間も押し予定していたテン場 (F3~F4 の間) には到底届きそうもないので、そろそろ探さなければならぬと思っていたら、程なくいい感じの場所を見つけ、暗くなる前に急いでタープをはり、焚き火用の木を集め急いでセッティングした。

楽しい焚火も体は疲れていなかったが、気疲れが過ぎてお酒もイマイチすすまなかった。

・ 7月31日(日) 晴れ/曇&小雨

【行程】 F2 先テン場(6:50) F6 巻き(17:30) 登山道(18:58) 蔵王ダム管理所(23:05)

昨日の時間のかかり方だと、テン場もだいぶ手前であるし、最後まで逆行は無理そう

なので相談の上、手前の二俣(1190m 手前)を右俣に入りその奥の二股も右へ行き登山道へ出ようという事になる。

地形図をみるとここまでもほぼそうだったが完全なゴルジュ地形、最後の右俣に至ってはゴルジュを突っ切って右に入っているように見えるが・・・この右俣に関しては予定外の為、誰も記録等チェックしているものがおらずどういう状況なのかも未知であり不安な気持ちで出発。

1時間以上歩き、**F3** (二条 5m) まずは **SL** が滝前まで泳ぎ右滝の下をくぐり抜けるように右側に取り付き比較的簡単に登れそう、後も問題なく続く。ここはザックピストンした。

F4(6m)は **O** さんに偵察していただきながら左から巻いた、ここも泥壁だが木の根あり。ねているスラブ壁を懸垂下降で沢床に降りる。難しい箇所ではなかったがどうやら滝より巻道の方が今回は鬼門なのかも。少し時間がかかってしまった。

F5(6m)は一見難しそうだが、コケだらけの水流右がボコボコ穴もあり階段状になった場所もあり簡単に登れる。

F6(12m)は左から取り付くらしいのだが、難しそうに見える。どうやって巻こうか考えている間、時間を見ると 17 時を過ぎている。右俣はこのすぐ上なのだが、もうタイムオーバーだ。滝は巻かずこのまま登山道を目指す事になる。

F6 手前右側の手の掴みどころの少ない泥壁を **T** さんが取り付く、急で大勢での待機場所が少ないので少人数で留まりながら順番に進む、上部はザイルが少し足りなくなり、**O** さんがスリングを繋げながら先の様子を見てくれる。するとまだ急だがようやくフリーな状態で藪こぎ出来そうな場所にたどり着く。

ここで、携帯GPSで位置チェック、とりあえず直登し傾斜緩くなったら右へそれればOK！先が見えてきて大分気持ちも楽になった。

藪の中ではお互い見失わないよう前後に声をかけながら止まり止まり行った。

登山道にでたのは、間もなく 19 時を回ろうとする頃だった。

まだ明るい、あまり休憩は取らず明るいうちになるべく先に進もうということになる。

その前に下山が遅れる旨 **SL** の衛生電話でかけてみる、が繋がらず。ドコモ携帯が一番通じるとの事でドコモユーザーの私と **T** さん **T** くんが繋がる場所まで急いで小走りで進む。暫くすると山行管理の **T** さんからライン電話がかかってきた！直ぐに折り返す。

登山道に出て下山途中である事と、全員下山まではもう暫くかかる旨報告出来とりあえず安心する。後続が来るのを待つ。女性陣3人が来た。SLの持病腰の状況は深刻で、かなり時間がかかりそうだという、ダムの管理所まで車を持ってきてほしいとの事。先を急ぎこういった状況なので通行止め区間をいらしていただき、車を管理所まで運び待つ。先に女性陣3人が到着。先程は暗闇で見えなかったが、Mちゃんが自分の荷物とSLのザックを担いでいた。ほんのご苦労さまだ。

暫くし遠くからぼんやり明かりが見える、声をかけるとCLの声。渾身の力を振り絞りCLとSLがようやく到着。時間は23時を過ぎていた。

ぎゅうぎゅうに8人乗り込み、下の駐車スペースまで移動し帰り支度、お風呂は運良く25時まで営業している所(スーパー銭湯テルメ)があったのでそちらに向かう。

1時間も入れなかったが、大分疲れが取れる。

ファミレスで食事をし、運転を交代しながら千葉へ向かう、同乗された方々を送り届け、自宅に到着したのは翌朝9時を過ぎていた。



通行止め場所から出発



入渓点 壊れた吊り橋



やっぱ百名谷は違う？



支沢もダイナミック



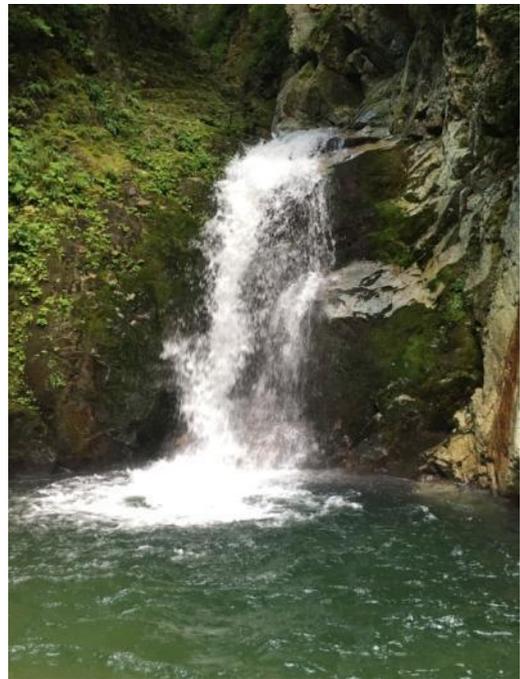
F1 取り付く SL



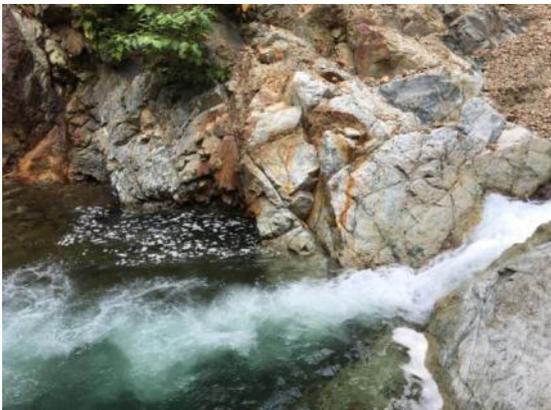
上部はトラバース



CL 頑張る 引き上げ隊は笑顔



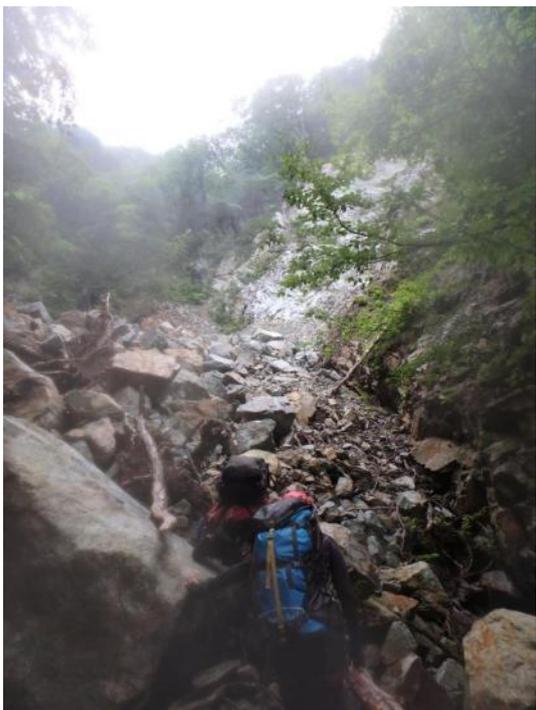
苦戦した F2



八方沢は釜が深い



F2 Mちゃんリードを皆で見守る



崩壊地を越す



崩壊地先はザックを浮きにバタ足



今日のテン場



ちょっとお疲れ気味



両日朝は良い天気



F3 まで結構歩く



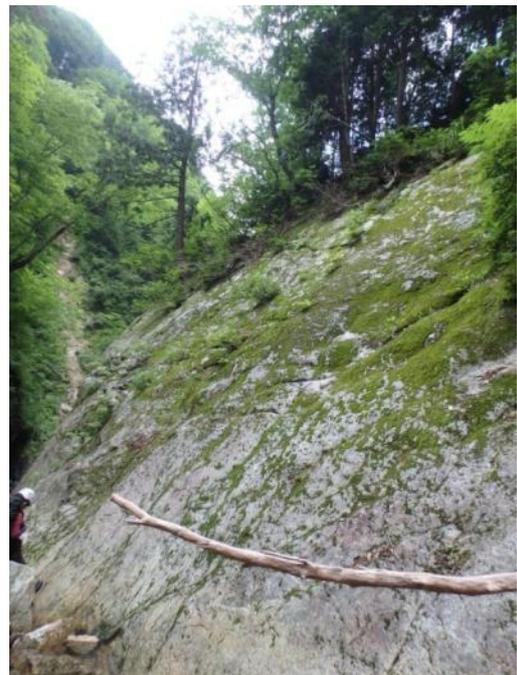
大きな淵奥にある F3 (二条の滝)



F3 のちょっと先



F4 左から巻く



F4 寝ているスラブを懸垂下降



F5 水流右から



F5 上から見た感じ



登山道へ向け F6 手前から取り付く



傾斜の強い藪こぎが続く